

# 健康保険、介護保険料ともにアップへ

## 家計は今年も厳しく

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は先月、平成22年の国勢調査の結果をもとに、日本の将来推計人口を公表しました。平成22年国勢調査によると、日本の総人口は1億2806万人。世界全体の人口は約70億人で、日本は世界10位です。ちなみに1位は中国(13.4億人)で、以下、2位インド(12.2億人)、3位アメリカ(3.1億人)、4位インドネシア、(2.4億人)、5位ブラジル(1.9億人)と続きます。

将来推計人口は、将来の出生や死亡をはじめ、国際人口移動(日本在住の外国人の数)などについて仮定を設け、これに基づいて将来の人口を推計したものです。複数の仮定に基づいた複数の推計になっているので、ここでは中位の数字での推移を紹介し、具体的には、これからの出生率は1.35人、平均寿命が男性84.19年、女性90.93年とみた数字での推移です。

今後日本の人口がこれらの出生率と平均寿命で推移する場合、人口の減少は進み、2030年には1億1662万人、2048年には1億人を割って9913万人、2060年には8674万人になると推計されます。つまり、今後50年間で人口が4132万人、率にして32.3%減少することです。

## ますます進む少子高齢化

また、図のように、この50年間で年少人口(0～14歳人口)は1684万人から791万人へと893万人(53.0%)も減少、生産年齢人口(15～64歳)は、8173万人から4418万人へと3755万人(45.9%)の減少が見込まれています。一方、老年人口(65歳以上)は、2948万人から3464万人へと516万人(17.5%)増加すると推計され、2060年には、65歳以上の人口割合が39.9%と増加する見込みということです。

	総人口	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)
2010年	12,806万人	1,684万人 13.1%	8,173万人 63.9%	2,948万人 23.0%
2030年	11,662万人	1,204万人 10.3%	6,773万人 58.1%	3,685万人 31.6%
2060年	8,674万人	791万人 9.1%	4,418万人 51.0%	3,464万人 39.9%

※はその年の全体に対する構成比です。

当然、前提である出生率や平均寿命が変化すればこれらの数字は変わりますが、日本は世界で一番速いスピードで少子高齢化が進むということに変わりはありません。

## 働き手の人口が減少、支えきれず

そしてこの少子高齢化に大きく影響されるのが、年金や医療などの社会保障の給付費です。社会保障の給付費は、給付を受ける高齢者を、保険料を負担している現役の働き手である生産人口で支える仕組みだからです。2009年度をみると、年金や医療などの社会保障の給付費は99兆8507億円と前年比で5兆7659億円(6.1%)増え、この増加傾向が今後も続くことは容易に想像できます。

政府は「社会保障と税の一体改革で目指す将来像」で社会保障の改革を進めています。平成24年度の健康保険、介護保険料ともに3月分からアップします。国民年金保険料は昨年比で若干(0.3%)安くなるのですが、逆に受け取る年金額も0.3%減額になります。厚生年金保険料は9月分からアップします。今年も厳しい家計が予想されます。

暮らしのマネープラン  
相談センター・所長  
サーティファイド  
ファイナンシャルプランナー  
高橋 昌子



知らなきや損する

いしかわ暮らしのマネープラン



# SBI証券のEXPRESS口座

## 開設はこちらへ

最短、翌日から取引可能!

(口座開設料・管理料は無料です)



FPサポート研究所

<http://www.fpsl.co.jp/>

検索



貯蓄 投資



あなたの暮らしと財産を守るパートナー  
株式会社 FPサポート研究所

金沢市此花町3-2ライブ1ビル1F ☎076-232-2038

●株式会社エフピーサポート研究所(金融商品仲介業者)登録番号:北陸財務局長(金仲)第2号 ●当社は、所属金融商品取引業者の代理権は有しておりません。●当社は、金融商品仲介業に関して、お客様から直接、金銭や有価証券のお預かりをすることはありません。●所属金融商品取引業者 株式会社SBI証券 登録番号:関東財務局長(金商)第44号 ●加入協会:日本証券業協会、社団法人金融先物取引業協会